



パルシステム 放射能レポート

Radioactivity report

ご希望の方は毎月1回
「パルシステム放射能レポート」を配付いたします
190888 ◀ 左記の6ヶタ注文番号で
お申し込みください。

2016年度は
98.3%
不検出



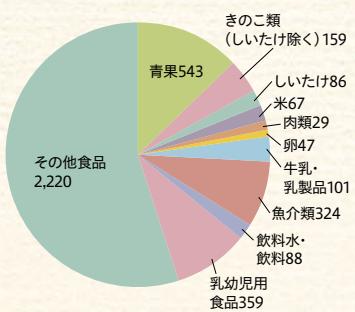
パルシステムでは、食品の残留放射能について国基準より厳しい自主基準（独自ガイドライン）を設定し、2012年から検査を続けています。4,023件の検査を実施した2016年度の各品目の検査結果を中心に、概要や行った対策をお伝えします。

2017年度も検査を続けていきます。

全品目概要

4,023件の検査を実施し
98.3%が不検出でした

2016年度検査件数



2016年度は放射能検査を4,023件実施。そのうち検出件数は65件、不検出率は、98.3%でした。

乳幼児用食品については、検出下限値を1Bq/kgで年2回検査を実施。その他の食品は3Bq/kgで年1回検査を実施しました。2016年度は、しいたけなどのきのこ類、米、柑橘類などで放射能を検出。原発事故から6年が過ぎ、行政では検査を中止する流れがあるなか、パルシステムでは継続して放射能検査を実施。生産者を含めて放射能を意識した商品づくりにつながっています。

組合員の 声

2016年度、パルシステムの放射能への取り組みについて、組合員からたくさんの声が届きました。

- 「パルシステム独自の取り組みに期待しています」
- 「原発事故の影響がすべて終わったことかのように日常生活を送っていた自分にハッとしたことがあります。パルシステムからの放射能情報は、たいせつだと思います」
- 「放射能の検出が続くきのこ類も利用しています。パルシステムのガイドラインより低く、産地がさまざまな努力をしていることが伝わっているからです」

青果

各産地の対策が功を奏し
検出は減少しています



「バレンシアオレンジ」で放射能の検出がありました。皮も調理に使用する柑橘類は、皮ごと計測していますが、放射能は皮の部分にたまりやすいため、皮を除いて計測すると不検出となりました。また、「れんこん」でも検出がありました。放射能の作物への吸収を抑えるために、ゼオライトなどの資材を農地に散布する対策を行いました。

行政検査では、自生している山菜を中心にいまだに高い放射能の検出があります。しかし、パルシステムでは各産地の対策によって、作物からの放射能の検出は大変低くなっています。

米

万全を期すために
玄米状態で検査を実施

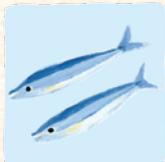


2016年産は、27産地67検体の検査を実施。茨城、千葉(ちば緑耕舎のみ)、栃木、福島の産地については、複数の検体を検査しております。米はぬかの部分に放射能が蓄積されるため、放射能の状況を確認するため玄米で検査しています。

2016年産は、栃木県の「日本の稻作を守る会」の米から放射能が検出(パルシステムのガイドライン以下)。検出された玄米を白米で再度検査した結果、検出ではなく、白米でお届けをしています。産地では代かきを2回行い、土壌中の放射能を洗い流したり、河川からの放射能流入を抑制する対策を実施しています。2017年産も引き続き対策を行っていきます。

水産

検査対象地域を拡大も
放射能の検出はなし



2016年度から、水産品は検査対象地域を拡大しました。これまで日本近海のみだった検査対象を、北太平洋の一部の範囲まで検査を拡大したこと、「まぐろ」などの魚種が検査対象となりました。

また、汚染水の影響が心配される北海道から神奈川県までの太平洋側で漁獲される原料については、月ごと、漁獲域が変わることに検査を実施。放射能の検出があった水産品は、ストロンチウムの検査も行うこととしていますが、2016年度は水産品からの放射能検出はありませんでした。

菌草類

原木や菌床のおがくずを
管理することで対策を実施



2012年以降、放射能の検出がある「生しいたけ(原木栽培)」。2013年度に最大で60Bq/kg検出された時期もありましたが、原料の原木価格が高騰するなか、国の原木における放射能基準をクリアした原木だけを使用するなど徹底した管理によって、放射能の検出は年々非常に低くなっています。

2011年度に検出のあった「なめこ」は、おがくずの菌床を工夫することで対策を実施し効果を出していましたが、2016年度に1度検出がありました。「しめじ(ひらたけ)」、「ぶなしめじ」は、菌床に使用されるおがくずに由来する放射能を2016年になり初めて検出。さらなる検査を行い、状況の把握に努めています。

Q 放射能検査状況について

パルシステム自主検査の報告

〈2016年度の検査数(カッコ内は検出件数)〉 不検出率:98.3%

(2017年3月31日までの検査結果)

青果	543 (2)	牛乳・乳製品	101
しいたけ	86 (53)	肉類・卵	76
きのこ類 (しいたけ除く)	159 (7)	魚介類	324
米	67 (2)	乳幼児用食品	359

飲料水・飲料	88
その他(加工)食品	2220 (1)
総計	4023 (65)

〈2017年度の検査数(カッコ内は検出件数)〉 不検出率:97.8%

(2017年4月18日までの検査結果)

青果	23	牛乳・乳製品	5
しいたけ	4 (3)*	肉類・卵	1
きのこ類 (しいたけ除く)	5	魚介類	30
米	0	乳幼児用食品	14
総計			207 (3)

*生しいたけ(原木栽培) 6.7Bq/kg、お料理セットのしいたけ3.1、3.6Bq/kg

〈検査結果:2016年度のまとめ〉

青果	2016年5月に小田原のバレンシアオレンジの3件中1件から3.2Bq/kgが、2017年2月に常総センターのれんこんの2件中1件から6.1Bq/kgが自主基準内で検出されました。
しいたけ	生しいたけ(3.1~13Bq/kg)で放射能が自主基準内で検出されました。
他のきのこ類	しめじ(ひらたけ)(3.0~3.5Bq/kg)、ぶなしめじ(3.1Bq/kg)、なめこ(4.4Bq/kg)、で放射能が自主基準内で検出されました。他のきのこ類は放射能不検出です。
米	2016年産米の検査は27産地67検体の検査を行いました。日本の稻作を守る会の栃木こしひかり(玄米)を検査したところ、2件(3.9、4.1Bq/kg)の検出がありました。検出された玄米を白米で再度検査した結果、検出はありませんでした。米の全産地の検査は終了しました。 ※放射能の多くはぬか部分に蓄積します。検出されました栃木こしひかりは、白米での届けとなります。

牛乳・肉・卵	産地ごとに定期的に検査しており、今年度放射能は検出されていません。
魚介類	魚介類で放射能は検出されていません。
乳幼児用食品	検出下限値1Bq/kgで検査を行っていますが、すべて不検出です。
その他食品 (お料理セット)	肉・豆腐などは定期的に検査を行っています。野菜のみを毎月検査を別途行っています。菌草類については毎週検査を行っており、しいたけおよびしいたけ水煮(3.4~14Bq/kg)、まいたけおよびまいたけ水煮(3.1、3.2Bq/kg)、から自主基準内ですが検出されています。その他のお料理セットで使用されています菌草類(えのき茸、マッシュルーム、ぶなしめじ)からの検出はありません。
その他食品 (大豆加工品)	豆腐、納豆、味噌、醤油など大豆加工品は、2015年産および2016年産原料で検査を行っているものと、製品で検査を行っているものとがありますが、放射能は検出されていません。
その他食品	ブルーベリー＆ルテイン(6.5Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。



測定方法について

パルシステムでは、検出数値が正確な「ゲルマニウム半導体検出器」2台を使用しています。食べられる部分だけを取り出し、細かく切るなど下処理をして、測定容器にできるだけ詰め込み、外部の放射線の影響を受けないように厚い鉛の容器で遮断して、精密な測定を行います。

パルシステムの 自主基準 (独自ガイドライン)と 検出限界について

パルシステムでは食品の残留放射能について**自主基準(独自ガイドライン)**を設定しています。放射線にはこれ以下なら安全という「しきい値」がないので、**基準以下であっても、放射能低減を追求します。**検査の結果、**自主基準を超えるものについては供給いたしません。**また、**自主基準(独自ガイドライン)**は継続的に見直しを行います。

自主基準(独自ガイドライン)(セシウム134,137の合計) 2014年10月より現行基準(単位Bq/kg)	国規格基準
水、飲料、牛乳、乳製品、米、乳幼児用食品 10	水、飲料茶 10 乳児用食品、牛乳 50
青果類(きのこ類除く)、肉類、卵、魚介類、海藻類、その他食品、きのこ類(しいたけ除く) 25	一般食品 100
しいたけ 100	

※乾燥食品は生原料や摂食状態で検査します。

※乳幼児用食品は「yumyum」掲載商品とインターネットの「赤ちゃん・キッズOK食材」掲載商品。

検出限界値

検出限界(ヨウ素131、セシウム134、137それぞれ) 2016年4月1日から 新基準に変更(単位Bq/kg)	
乳幼児用食品	1
水、飲料、牛乳、乳製品、米、青果類、肉類、卵、魚介類、その他食品	3

● フルーツ yumyum セットにセットされている果物は、検出下限値1Bq/kgで検査を行っています。

放射能検査の対象範囲について

農畜産物とその加工品	北海道を除く東日本産 (新潟・長野・静岡以東の本州産)
水産物とその加工品	日本沿岸・近海・一部の北太平洋・淡水産水産物

- 青果は、北海道を除く東日本(新潟県・長野県・静岡県以東の本州17都県)のカタログ掲載産地において、分類ごとに一品目以上検査を行っています。注文時にあわせて公開しているオンラインの自主検査結果に検査が間に合わない品目については、供給前までには放射能検査を実施します。
- 水産は、北海道から関東の沿岸近海のエリアを重点地域として、原料切り替わりをした月に検査を行っています。
- 検査は、ご注文にあわせて実施していますが、冷蔵・冷凍・常温の各加工品は年1回計測しています。

パルシステムが考える

乳幼児用食品に求められる検査基準

乳児だけでなく幼児も含めた 「乳幼児用食品」に独自基準を設定

国では、粉ミルクや離乳食など「乳児用食品」について、残留放射能50Bq/kgの基準を設定しています。

しかし、この「乳児用食品」の範囲は、「1歳未満」を意味する「乳児」に限定され、「乳児用」の表示許可を受けたもののみ。ミルクなどごく一部の食品に限られています。

パルシステムでは、赤ちゃんはもちろん幼児(1

~6歳)においても、放射能の影響を強く受けける可能性があるため、より広い範囲の食品に、独自基準を設けています。

オプションカタログ『yumyum For Baby&Kids』掲載商品、インターネットの「赤ちゃん・キッズOK食材」を「乳幼児用食品」とし、残留放射能は10Bq/kgの自主基準を設定しています。

さらに、2016年4月からは検出下限値(限界)を1Bq/kgとして、より厳しく検査を行っています。パルシステムは、乳幼児用食品としてこれまでに、のべ359の商品検査を行いました。



乳幼児用食品の範囲

「乳幼児用食品」とは、オプションカタログ『yumyum For Baby&Kids』掲載商品、およびインターネットの乳幼児推奨商品(赤ちゃん・キッズOK食材マーク付商品)を指します。

乳幼児用食品の検出限界値

(ヨウ素131、セシウム134、137それぞれ)

1Bq/kg

『yumyum For Baby&Kids』では、粉ミルク、ベビーフードはもちろん、冷凍野菜、青果、魚、肉、乳製品、加工品、ドリンクなど幅広く掲載

- 週次の「放射能関係のお知らせ」はホームページで掲載しています。
- インターネットから見られない方はこちらにお問い合わせをお願いします。

パルシステム東京・パルシステム神奈川ゆめコープ・パルシステム千葉・パルシステム埼玉・
パルシステム茨城・パルシステム福島・パルシステム静岡・新潟ときめき生協

パルシステム問合せセンター

0120-868-014

※お問い合わせ内容の確認とサービス向上のために、通話の内容を録音しております。

パルシステム山梨

甲府センター 0120-28-5891

西桂センター 0120-32-1061

一宮センター 0120-21-9898

パルシステム群馬

高崎センター 0120-60-5115

渋川センター 0120-36-3315

東毛センター 0120-63-3735

※センターによって、携帯電話からはご利用できない場合があります。